

大規模経営の法人化と6次産業化による経営の多角化 ～(有)澤田農場～

経営体の概要

事業実施前：平成17年		事業実施後：平成28年
基幹作物：小麦、ばれいしょ、てんさい、大豆、牧草	➔	基幹作物：小麦、ばれいしょ、てんさい、大豆、牧草
経営面積：79.1ha		経営面積：85.7ha

取組の経緯と経営転換のポイント等

区画整理により農作業の効率化と安全性の向上、用水の整備により防除等用水の運搬作業が軽減されたことで、肉牛部門の拡充と農産加工による付加価値向上に取り組むとともに、経営の法人化を行い、畑作、肉牛、農産加工の3本柱による経営の多角化を確立した。

営農改善のポイント

①防除用水利用の省力化

給水栓が整備され、スプレーヤーに直接短時間給水が可能になり、大型牽引式(5,000L容量)の導入をもって作業効率が向上した。また、約10km離れた通作畑へのトラック輸送運搬経費が解消し、大幅な営農経費節減が図られた。

②経営の法人化

経営の大規模化に伴い、雇用労働力が必要となり、その確保(仕事の通年化)のため肉牛部門を拡充した。また、畑作部門で軽減された労力により農産加工に取り組むなど、畑作と肉牛、農産加工の各部門の経営内容を明確化するため、法人経営へ移行した。(繁殖素牛100頭規模)

③6次産業化の推進

平成20年から農産加工の取り組みを始め、平成23年に6次産業化の認定を受け加工施設の整備を行い、手作り味噌、豆腐、大豆せんべい、牛めし等の製造販売を行っている。地域ブランド確立による地域活性を目指し、各種イベント等での講演などにも積極的に参加し、情報発信を行っている。



農場近接のばれいしょ畑



農産加工施設

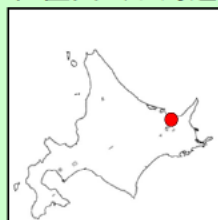


道の駅での加工品販売

事業概要

事業種：畑地帯総合土地改良パイロット事業
関係市町：斜里郡清里町
受益面積：12,910ha
事業期間：昭和53年～平成21年
事業目的：用水改良、畑地かんがい、排水改良、農地造成、区画整理
主要工事：ダム1箇所、頭首工3箇所、用水路229.7km、排水路9.1km、道路32.5km、農地造成453ha、区画整理7,593ha

位置図(北海道)



小清水地区

<問い合わせ先>

北海道開発局 農業水産部
農業振興課 調整係
電話：011-709-2311
(内線5684)

(平成28年度調査時点)